

刊夕日六十月九

常磐每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
電話 常磐 每日新聞社
印刷所 常磐 每日新聞社

竣功近き水道

擴張事業概要 (4)

平町 伏見彦衛

十、配水管

配水管は人口四萬人（一人一日四、五立方尺）とし八萬立方尺と鐵道其他給水二萬立方尺を併せて貳拾萬立方尺を全町に給水するものにして、是れを幹線二線と高架水槽より直配する一線とに依り全町に給水するものとす、各線には「ゲエリ」用「メーター」を裝置し、使用水量は勿論時々刻々の使用状態等自記表示す、配水管は内徑三百耗より七拾五耗迄の各種にて總延長七萬七千二百八拾尺七寸（五里二十四町四十間）町内を數區に區分し制水弁を附し事故發生の場合其區分毎に斷水して修理を施し又火災に際し、壓力不足の場合他方部の配水を停止し一方部に集注して之れを補ふ、消火栓の数は双口六拾二個單口五拾二個計百拾四個を裝置す、其他水壓渺なき所には唧筒用に供する爲防火井拾六個を設置す、又途上公衆用として公園内に二基縣社子鐵倉神社境内に一基の公衆共用栓を建設す、其他專用裝置をなし難き使用者の家事に供する

公私設共用栓を各町に亘り三百六十八基を設置せり、静水頭は町の中央に於て百拾八尺五寸なり。
概要前述の如くにして今回施行したる工事は、好間村大字上好間字東唐松、俗稱熊ノ崎に既設取水室東側へ長九尺六寸幅六尺の長方形全部混泥土造のもの一個を新設す、導水管に於ては延長壹千二百八拾間の處既設内徑拾吋鐵管及同徑鐵筋混泥土管を全部内徑四百耗の鐵管に敷設替へし（鐵管は配水管に流用せり）上の原淨水構場内に着水井一個沈澱池、濾過池（二面連續せるもの）一個を築造す、送水管は既設内徑拾吋鐵筋混泥土管、延長百七拾六間餘を内徑四百耗鐵管に變更し、同点より拾吋と三百耗鐵管の二管に分岐し、既設拾吋鐵管は其儘とし之れに並行して新の三百耗鐵管を敷設し、八幡小路配水池構内高架槽に達す、此延長千六百九拾七間五分にして、既設拾吋鐵管の延長中舊中學校運動場内横斷箇所も新設管と並行せしめし爲め延長、千七百二十二間二分となれり尚ほ高架水槽と配水池一個を増設し「ゲエリ」用「メーター」二組の増設一組の据付替をなせり配水管に於ては新設配水池

より内徑三百耗鐵管を以て鼠坂第二小學校構内を経て揚土縣社子鐵倉神社裏を経て播磨小路二地先十字路に至り同点より二百五十耗鐵管を以て田町通り白銀町を経て大工町一四地先に至る間、平驛貨物構内前より本町三丁目に通ずる既設六吋管に連絡せしめ、尚ほ前記大工町一四地先より右方は既設六吋鐵管に取付れ左方は二百五十耗鐵管を以て鐵道横斷して仲間町七六地先既設六吋鐵管に連絡せしむ、此總延長八百三拾九間三分なり。
事業費豫算總額二拾六萬四千五百五拾圓にして昭和五年九月十七日起工し、爾來町吏員及水道委員の努力と四方各位の援助に依り本年五月三十一日事業の完成を見るを得たり。〔完〕



雨より 悪るい 三津木貞夫

「父 お前なんで喰はなさんだ。」
「いや。」
「俺のあしたの辨當だけとつて、くれ。あした、俺ら仕事さ行くんだから」と、付け加へて言つた。
「あした休みでないけい？」
「しかし、俺ら働らなくだど、いや働らかなかつてなんない。遊んで居られるか。」
十一歳を頭に、四人の子供だつた。
子供たちは、飢えた豚のやうに、カツ／＼音を立てて飯を胃の腑へたゞきこんだ。日はとつぱりと暮れた十五錢で米を買つた。副食物はない。とにかく、しかし十五錢の米で明日一填、一家六人は空腹を我慢しなければならぬのだ。大人はなんとか我慢出来る、が子供は飢えたと胃の腑につかされて泣き叫んだ。重吉は、垢だらけの蒲團にくるまり、瓦斯カンテラの臭いを嗅ぎながら、子供たちの黄色い嘴を眺めた。
妻は、彼のアルミニウムの辨當箱へ、辨當を詰めると、彼の側へ来て蒲團へもぐつた。彼は、竊つと妻の腹へ觸つて見た。
失つ張りペコペコ、皮が干びてひつたるんで居た。瞬間、彼は暗らく、冷めたく、首をぢぢめた。しかし三十女の妻は無神経に彼の腰へ手をからみながら、頬杖をついて子供たちの箸の忙しいうごきを眺め、ゴクリと唾液を咽喉へのみこんで子供たちに「うまいけい」と、頬を歪めた。

「そして、お前等も早く喰つて寝さい。」
子供たちは必死に喰つた妻は空腹を性慾で充填させるものゝやうに彼を挑發した。彼は、失業と空腹の苦痛を妻の肉体で忘れようとしたが、が、しかし、それにも彼は疲れ果てしまつて居る。三十女の性慾の強さには、彼は、恐怖を感じた彼は腫を脹ぶつて狸寝入りをした。
雨は軒に蕭條と降りしきつた。

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎巡 回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

◎期 日昭和七年九月十八日(第三日曜)
◎場 所平町第三小學校庭
◎競技方法 タイム滞空競技
第三 郡下模型飛行機競技大會
◎賞品 一等高さ一尺の大銀カツプ及び銀賞牌、銀メダル其他十五等迄澤山進呈奮て多數御参加あらん事を！
規定及び詳細は主催店へ御問合せを乞ふ

主催 平町 いづみや飛行機材料店
後援 平町 常磐毎日新聞社 東京 ダイヤモンド 模型飛行機 東京研究會

平新川 一九一九 外婦人科 木村病院 電話一六四番
産婦人科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學士 内 木宗八
内臓外科 泌尿器科

毎度御ひいき 有難ふ御座ります
うなぎの御用命は うなぎ 奴
平町田町(電話二二番) ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!
中村齒科醫院 平町 鍛冶町七

救済 土木 工事の勞銀

▽…けふ平土木監督所から

標準發表さる

平土木監督所では今回石城郡下に割當られた農村救済土木諸工事施行の爲め目下全吏員が午後九時迄勤務時間を延し設計製作に馬力をかけて大忙を極めて居るが同所では今回の土木工事に使用する者の標準賃金を左の如く發表した

(一人一日につき)
人夫頭一圓五十錢以内、
人夫六十五錢△大工一圓二十錢、在大工九十錢△

木挽一圓三十錢△石工一圓四十錢△石積夫一圓十錢△左官一圓二十錢△と
職一圓二十錢△籠組夫九十錢△電線工九十圓△
ペンキ職一圓二十錢△か
ち工一圓六十錢△馬車賃二圓四十錢△手車人夫一圓△船夫一圓六十錢
なほ標準賃銀の最低、最高賃銀は二十錢見當の開きがある

公會堂埋立工事に

請負業者も活動の

餘地を興へて欲しいと
けふ役場に懇談

既に着手した平町公會堂敷地の埋立工事は救済事業を主眼とし町役場直營にて失業者は使用しつゝあるが平町請負業者組合員一同は本日町役場に伏見町長を訪問し救済を兼ねた埋立工事ならば吾々組合員にも應分の工事を請負はして活動の餘地を興へて貰ひ度いと懇談する處があつたが町當局にも豫算の都合があるので如何に解決するか成行は注目されて居る

資金造成

三曲演奏

平青年團主催

平青年團にては昨日午後二時よりマルトモホールに於て幹部會を開き來月九日資金造成の爲め三曲演奏會を催す事に決定した

大浦共米高値

大浦農業倉庫の共米販賣は昨十五日行はれ四等米四十九俵

五等百五十一俵、等外三俵計二百三俵を入札せる結果四等建値七圓七十四錢を以つて平町の丹野周一郎氏に落札されたが前回より十八錢の高値であつた

梨果荷造品評會

けふ入賞者決定

既報石城郡農會主催にて昨日より平署會議室に於いて催された梨果荷造品評會は出品四百箱に達したので本日審査を行つた結果左記の如き成績を發表された

- △一等(内郷)草野雅一(赤井)矢吹金吾(平窪)根本久光△二等(大野)佐藤津留松(下小川)鈴木久次(好間)金成義男(平窪)金成貞三(同)國府田唯男同鈴木徳雄△三等(大野)大和田廣三郎外二十九名△四等(大野)久野金吾外四十五名

教員檢定

委員を任命

既報來る二十六日より一週間平第一學校に於て施行

水泳戰準備

磐中の計劃

磐城中等學校水泳部にては來月中旬入山、磐炭、古河の各水泳部を迎へ對抗競技會を催すべく目下準備中である

橋本校長出張

磐城中等學校長橋本文壽氏は來月十三日より三日間青森中學に於て行れる東北及び北海道中等學校長會議に出席すると

江名蠶種購入

石城郡江名町養蠶實行組合では今十五日町役場に委員會を開き蠶種の共同購入の件に就いて協議會を開いた

改修費の

兩村割當

永戸箕輪協議

石城郡永戸箕輪組合村では去る十三日午後一時より村役場に村議區長等が參集し回縣より農村救済土木事業として同村に割當られた七千圓の道路改修工事の配分法に就いて協議せる結果永戸部落は三千七百圓、箕輪部落は三千三百圓と決定した

小名濱の

校舍増築

石城郡小名濱町小學校は現在の校舍狹隘にして來年度新入生の收容不可能の爲め工費六萬圓位の起債により増築を計畫し近く町會に附すべく設計中である

放課後の學習

磐城高等女學校にては來週より放課後一時間同校生徒の希望者に對し國語數學英語圖畫習字手藝を課する事になつたが現在の希望者は五十餘名であると

磐女弓道練習

磐城高等女學校弓道部にては明日より佐藤教諭指導の下に練習を開始すると

蘭市況

(15日)

△四倉市場
(白蘭)百五十五貫(最高)四十一圓八十錢(最低)三十五圓(馴)三十九圓三十錢

平町人事

△出生
△紺屋町三〇 國井又一氏 三男繁
△婚姻
△香川縣大川郡福榮村宇東山九九八 友國勝(一九) 西軒町廿一 猪瀬美枝

匪賊 夜話

滿洲奉天駐劄 軍曹 矢野重光
潜伏せる曲者
此處は山間の僻村小城市の一夜の事である、温い御飯と熱い味噌汁とに空腹を満たし、淡い豆ラソンの下に全身横になつてソロソロと終日の疲勞も忘れんとした居る頃陰鬱な薄闇に包まれたる宿舎を巡視して居る不審番殿が疲れ果て、居る身にあり乍ら沈着して居る彼の動作を一見しても如何に警戒心の旺盛なるかは直感出來た、彼の眼中には只今日の灣口嶺に遭難した大刀會匪があるのみだつた、今しも三角形の槍を眼前に描きつゝ、宿舎の入口より右角にと足を運んだ時庭隅に積んだ高粱の蔭に異様な者を發見した。其の瞬間彼の腦裡には大刀會の三文字が亂舞して全身の少しく戦慄するを覺えた。

「待て、こんなに慌ててはならぬ……」と自分の心を押へて二足三足接近し勇を鼓舞して誰何した。然し其の者は無言だつた。眼は異様に輝き、腕の血は逆流し始めた。

底から捲り出した苦しい聲で誰何した時其の者は徐ろに動き出した。
あゝ餘りにも相違せる大刀會匪ではないか……？そは口惜しい哉！豚だつたのだ。一人を馬鹿にしやがつて……
彼は大石を拾ふなり力一杯投げ付けた。豚は悲鳴を揚げて、關の彼方に消えて行つた。「あ……」嘆息を洩し乍ら彼は悄然としてゐた。憐うした彼の苦心をも知らず、二匹の螢が争ひつゝ彼の頬をかすめて行つた。ドーン、かすかに銃聲が一發聞えたがまたしても無氣味な静寂に返る。

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院
平町 田町
電話二一四番

入坑して盗んだ銅線を 自分の體に巻きつけて

坑外に出てから賣り飛ばす 其金額が積り積つて數百圓

四名が聯絡

石城郡内郷村磐城炭礦高坂坑夫長屋六號高橋豊吉(三〇)外三名は本年五月頃より共謀して入坑毎に坑内各所より裸銅線を窃取し自分の體に巻きつけて坑外に出て同村字宮古物商横山貞三及び東京神田區の古物商星野順吉等と連絡しては賣拂ひ代金數百圓をせしめて居た事發覺主犯高橋豊吉外一名は本日平署に檢擧されたが殘る二名は未だ逮捕はれず同署刑事室には是等一味の窃取せる銅線が山をなして居る

高木三郎(獨唱サントル)チャ(五ノ一大越重芳(バ)イオリン・ピアノ合奏)ドナード池五ノ一柳井正司五ノ二國井正武

無錢飲食

一時頃平町紺屋町カフエー松ヶ岡方で一圓餘の無錢飲食をなして平署に檢擧され取調た處同人は昨年十月より新川町飲食店山口キン方で二圓、田町の梅月方で二圓五十錢同町たら福方で二圓外數件の無錢飲食をせる事自白したので目下取調中である

風雨にさらされて 白骨化した心中死體

月見のス、キ刈りに發見

飲食店の伴と其處の酌婦

長男當時同郡湯本町矢内自動車店方助手坂本二郎(二六)女は同町三函飲食店米川茂方抱酌婦相馬郡真野村大字川子字割田生れ渡邊ヒデ(一八)と

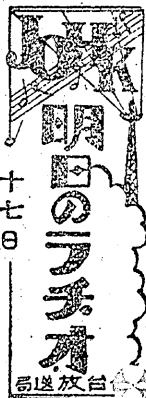
警中で 音樂會

廿七日に

磐城中等學校音樂部にては來る廿七日同校講堂に於て音樂會を開くが當日のプログラムは左の如くである
(月見草)一ノ一 湊徹郎外八名(日ぐれ山道)一ノ二 金(虹)一ノ三 額賀弘外二十名(わが駒)一ノ四 長瀬高行外十一名(狸ばやし)一ノ五 金成三郎外十二名(獨唱月夜の唄)二ノ一

山道で

月見に使ふス、キ刈りをして居た處叢の中から風雨にさらされて白骨化した男女の心中屍體を發見驚いて其筋へ届出たので平署より圓通部長が出張檢視せる結果男は石城郡小名濱町横町飲食店坂本庄藏



明日のラジオ

今晩は北西の風曇り小雨模様明日は北西の風天気が次第にあがります

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
物語「びつこの船頭さん」なままつを
後六、三〇 運動講座「リグ戦前の各大学の練習を見て」河合君次
後七、三〇 講演

青年團副團長 金成君に決定

既報平青年團にては昨日午後一時よりマルトモホールに於て臨時總會を開き副團長補充の件を協議した結果満場一致金成泉一郎君に決定した

盗んだ通帳で 百廿圓拂下げ

其他窃盜卅餘件 昨夜平町で捕る

平町新川町地内を昨夜十時半頃一名の青年が徘徊するのを密行中の平署員が怪しみ本署に引致取調べると同人は伊達郡長岡村新町五十三生れ當時住所不定吉田豊吉(三〇)と稱し去る十日夜石城郡小名濱町下明神町大田キミ方に忍入り百六十圓記載の郵便貯金通帳及印鑑を窃取翌日小名濱局より百二十圓拂下げた外湯本、二内郷等に於て三十餘件の窃盜を働いたので目下餘罪取調中である

戦死者

慰靈祭

石城郡江名町では來る十八日午前九時より同町小學校に於いて同町出身滿洲事變戦死者の慰靈祭を舉行する

第二圖書指導

平第二小學校圖書部にては本日本午後三時より作法室に於て部員會議を開き今後の指導方法に就いて協議すると

巡查採用試験

平署にては來月十四日日本縣巡查の採用試験を行ふと

明日の部

前六、三〇 家庭教育講座(二十九)「青年の心理と性教育」京都帝國大學教授文學博士 野上俊夫
前七、〇〇 エス・ペラント講座(二十九)八木日出雄
前九、一〇 料理献立「玉子燒菓子」中村光三
前九、三〇 婦人講座「更生と婦人」戸野みちる
後〇、〇五 歌謡曲 松野しま子外
後二、〇〇 講演「日本精神に就て」(終)高須芳次

平職業紹介所報告

回求人部
△ミシンの見習 十七才 尋卒 仕着小使(東京市某)
△難役 二十二以下 尋卒 月五圓(平町某)
△納豆製造見習 十八迄 尋卒 月四圓(平町某)
△豆腐賣子 三十以下 尋卒 賣上の二割(原ノ町某)
回求職部
△給仕 十九才 高卒 給料面談(磐崎村某)
△土工夫 四十四才 尋四 修 給料面談(平町某)
△難婦 三十才 尋三修 給料面談(平町某)
△難夫 十八才 高卒 給料面談(平町某)
△女中 二十六才 高卒 給料面談(内郷村某)

上野科醫院

平町 南町
電話一二九番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第五百十三席 女流劍客里見靜枝

傳藏の前身が判る
長谷部傳藏は素より死ぬ氣は無い腹を切ると云つたならば助けられるであらうと斯う思つて杉山五郎兵衛の許に來た、果してこれに居つた秋山要介に死を止められ、計略なつたと喜んで居るであらう」

要「コレ杉山長谷部に手當を加へてやれ、貴様も武士だ、まして一流の指南をいたすものであれば手傷を負うた者の介抱いたす事は心得居るであらう」
五「それは少々は存じて居ります、先づ傷を洗ひ、くさらぬ様にいたします」
これから道場に伴れて來て下男の久助と二人で傷をあつためると左の腕に一ヶ所右の小鬢と左の腰に一ヶ所以上三ヶ所の傷、その中にも小鬢の傷は耳が半分削けてゐる、傷は焼酎にて洗ひました、薬が無い、秋山はこれを見て弓の折れを杖にして道場に來て疵を篤と見て

と力をつけた、斯ういふ負傷者は氣がしつかりしてゐると癒ります、朝鮮の役に立花宗茂が鐵砲で右の足を討たれた、彈丸は脱けたが跡が孔になつた、風が入ると宜しくない、土を取つてそれへなすりこみ、もうこれで好いと云つて大朋の大軍を相手に奮闘して武功多く立花は豪傑だと云つて諸將が賞めた、其後日本へ引揚げたその翌年の春何んとなく足がムズ／＼するからどうした事かとそこを見るに草が生えて花が咲いてゐた、足に花の



は秋山の療治もしてゐて外科にも通じてゐるから手當を加へたがこれは本ものです、傷へ鹽などはつめない
五「僅な傷でございます、一通りも経てば痕もなく癒ります」
段々其原因を考へると、怪俄をした所へ塗り込んだ土の中に草の種があつたため……これは演者も確な説とは云へないが、こんな話もありませう、怪俄人を救ふは醫者の技倆にある、庵などは頭の禿

るまで長年人殺しをしてやうやく斯道の智識を得た苦勞人、患者を扱はしては上手なもので長谷部傳藏も醫者の説を聞いて一週間も経てば癒ると思つてゐたところが一週間経つたがどうも快くならない、玄庵はこの経過を見て
五「浅い傷だ、一週間もたれば痕もなく癒ります」
云つた二週間経つても癒らない、然し痛みは去りまじな、三週間過ぎると大分快くなつて來た、傳藏も勇氣が付き醫者の方も氣合がつかます、ところで杉山は劍術の指南をしてゐることゝて門人が出入りをする、長谷部傳藏は庭の隅の物置きに入れて置いたが、どうも門人に見られるやうに思はれるそれで醫者の玄庵の許に預けて治療をさせることにしたと秋山要介が
要「杉山長谷部はどうした」
五「大分元氣も出てまいりました」
要「さうか彼奴は曲者だ當日門人共から聞いたには彼奴は江戸町々の道場を荒し廻つた、三人組の一人で里見の道場に參つて亂暴を働いた時に強かに打据へられたが里見を殺した原因であらう」
五「それは怪しからん豫て三人組の亂暴なる事は承り居りましたが長谷部はその一人でございますか」
要「さうだ、そこで殺された里見には門人も多くあるとの事、其の中より師の仇

印刷物の御用命
常磐毎日印刷株式會社
電話三〇六番

看護婦急派
の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

玉屋洋品店
平町田町
電話四五六番

外科 X 光線科
性病科
安齊外科醫院
平町田町
電話四七五番

内科 難波陸
平町新川端(釜屋新宅向)
醫學博士
電話五〇二番

季節御料理
柳川 一人前 金二十五錢
うな井 金三十五錢
蒲燒 金五十五錢
右大々勉強出前迅速
◎滋養豊富!風味美味!
是非一度御試食を……
大蒲燒・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚 菜
田町(電話四二四番)